



みらいこども園

3月号

2026年3月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子

一年を振り返って

寒くなったり暖かくなったりと気温の差が激しい日が続いていますが、園庭の梅の花は、赤く色づき、春の訪れを教えてくれています。早いもので令和7年度も集大成を迎え、同じクラスで過ごす時間も残り少なくなってきました。特ににじ組さんは、みらいこども園から就学へと巣立っていく大切な時間となりますので、充実した日々を送れることを心から願っております。

さて、子ども達の様子を見ていますと、子ども達の会話の中でも、もうすぐ就学や進級することを意識しているのか、嬉しそうに「〇〇小学校に行くんだよ!」「〇〇組になるんだよ!」と教えてくれます。それぞれが就学、進級と期待に胸を膨らませて、園生活を楽しんでます。いろいろな体験をしてきた中で出来ることも多くなったことが、喜びや自信につながり、どの子も大きく成長した姿は、入園当初の頃がととても懐かしくさえ感じます。

先日、にじ組さんと新城小学校の5年生との5・5交流の最終活動が行われました。今年は6回も交流ができ、子どもたちにとっては貴重な体験になりました。今回は、まず、4クラスに分かれて、一年間ペアを組んでいるお兄さんお姉さんと一緒に、桜の花をイメージして手型をとり、あらかじめ描いていた大木に貼り満開の桜の花を完成しました。今まで一緒に過ごした絆がひとつになり、どの子にも笑顔が溢れていました。この桜の木は、来年度の4月に、校長先生のお部屋の横に貼られ、1年生を出迎える装飾になるそうです。その後、小学生の案内で校内を探検させていただき、小学校をより知る機会になりました。最後に1年間の感謝の気持ちを込めて、手作りのメダルをプレゼントして帰ってきました。全員が新城小学校へ進学するわけではありませんが、この一年間の交流は、きっと子ども達にとって、小学校へのあこがれと安心に繋がったことと思います。自信をもって、小学校生活をスタートさせて欲しいと思います。

2月最終日には、にじ組さんとそら組さんのお別れ遠足がありました。前日から、遠足に持っていくおやつ詰めをしたり、お弁当の話をしたり、てるてる坊主を作る話をしたりと、遠足を楽しみにしている子どもたちの様子がありました。当日は天候にも恵まれ、せせらぎ遊歩道を通り、標識や花、草木、カモ、しらさぎなどを見つけては、「あった!」「いた!」と大喜びしながら橘公園まで、そら組、にじ組とペアを組んで歩いて行きました。公園に到着すると、「ペアの友達探しゲーム」「脱出ゲーム」などをして、広い公園で楽しみました。その様子が楽しそうに見えたのか、公園に遊びに来ていた小さなお友達も、遊びの中に入ってくるハプニングもありましたが、さすが、みらいこども園のお友達は、温かく受け入れていて、見ていて微笑ましかったです。お昼の時間は、お家の方の愛情たっぷりのお弁当をいただき「美味しいね」「最高!」と幸せいっぱいひと時でした。その後、広い敷地での追いかけごっこ、虫探し、アスレチック遊具、ブランコなどで遊び、普段体験できない公園での遊びは、子どもたちにとって最高の時間でした。帰りはさすがに疲れたのか、園に到着するとホールでボタンキューの姿も見せていました。楽しい思い出となりました。

このように、子ども達同士が対話を楽しみながら、笑ったり試行錯誤したりした活動や異年齢の友達と関わることは、思いやりの気持ちも芽生え、人との関わり大切さをたくさん学ぶことが出来ます。みらいこども園は、日頃から人との関わりをととても大切にしていますが、どういう出会いをするかによって、将来の目標や目的が見つかっていくと思います。これからも友達との絆が深まり、普段の遊びがより一層広がり、子ども達の成長に繋がって欲しいと願っています。

そら組さん、ほし組さんや乳児さんは、4月からひとつ学年が上がります。この一年の経験や成長を大切に見守っていきたいと思っています。

一年間、本園の教育方針や運営についてご理解ご協力をいただき本当にありがとうございました。